

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092300054		
法人名	社会福祉法人 星野村福祉会		
事業所名	星寿園グループホームほしのさと		
所在地	福岡県八女市星野村10779-7		
自己評価作成日	平成24年2月26日	評価結果確定日	平成24年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市古知1丁目6番48号
訪問調査日	平成24年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設1年半が経過しました。各ユニット毎に目指す理念を掲げ、それを目標に日々の介護を実践するよう心掛けています。施設は自然豊かな環境の中にあり、季節ごとに花見やドライブ、温泉に出かけるなど利用者、職員ともに楽しい日々を過ごしています。近くの幼稚園や地域のサロンの方々の慰問を受けるなど少しずつ地域との交流の機会も増えています。又、認知症に関する勉強会をはじめ、他の研修会にも参加を促し、職員の介護に関する質の向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域唯一のグループホームで、近隣に幼稚園や母体施設、入り口に市営の寮もあり、交流しやすい環境にある。運営推進会議は全家族に案内し、都合の良い日時の開催で毎回家族が参加しているが、より良い運営を目指し家族アンケートを実施している。また、地域サロンへの参加や入居者の誕生会を家族に案内してはどうか等、地域代表の具体的提案を運営に活かしている。インシュリン自己注射や胃ろう造設した入居者もあり、今後は整備した重度化や終末期に向けた方針に沿って、入居者や家族の希望があれば、看取りを支援する予定である。法人理念である入居者の人権の尊重したケアの提供を具現化すべく、各ユニット毎に理念を作成し、日々実践に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/事業所名 ほしのさと「野グループ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ(ユニット)で理念を作り、職員は日々利用者様に寄り添う介護を実践している。	母体法人の理念を実践するために、各ユニット毎にどのような介護をしていきたいかを話し合い、ユニットの理念を作成している。職員や入居者・家族等の目のつく場所に掲示し、朝の申し送り等で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会に招待して頂いたり、事業所へ地域の方や園児を招待したり、地域の行事へ参加したりなど、地域との交流に努めている。	地域行事の花火大会や村祭などに参加したり、地域サロン参加をお願いしたところ、サロン代表者の来訪があった。ホーム前に市営の寮があり、開所時には入寮者にホーム状況を案内している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で区長、民生員の役員の方や地域サロンの会長に利用者とふれあう機会を作った。だくよう慰問やボランティアの依頼をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を開催し、2か月に1回ほしの便り(新聞)を配布し日常生活状況やサービスの状況を報告している。また、参加者からのアドバイスを運営の参考にさせて頂いている。	適切なメンバーで2ヶ月毎に会議を開催し、会議録を整備している。全家族に会議を案内したところ、家族からの意見で参加しやすい日時を設定している。地域代表者から、家族に誕生会参加を呼び掛けてはどうかや地域行事への参加など活発な意見がある。	重要事項説明書で運営推進会議の目的や家族参加をお願いされているが、会議をさらに充実させるためにも、守秘義務や個人情報の取り扱いの明記をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政窓口へ出向いたり電話で連携を図り、事業所の現状報告や相談を行いアドバイスを頂きサービスの質の向上に努めている。	保険者からの意向を受けて開所したホームであることや、前村長が地域代表として運営推進会議に参加するなど、連携をとりやすい環境である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成している。当事業所では窓も玄関施錠も行ってない。但し胃ろうの利用者1名においては胃ろう抜去事故があったため、医師、家族の許可を受け、興奮時のみミトンを使用することがある。	帰宅願望の強い入居者に同伴して散歩をしたこともあり、入居に至る経緯を全職員が共有しながら声かけや見守りをしている。隣接する介護老人福祉施設で開催される身体拘束に関する研修を全職員に案内し、参加を促している。入居者の顔写真を派出所に照会することを、家族の同意を得て行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成しており、職員はそれを遵守している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	財産管理の必要な利用者においては親族の話し合いの他、行政への相談を行いアドバイスを頂き医師、職員、親族と話し合い利用者にとって一番良い方法で生活して頂くよう支援している。	成年後見制度を母体施設園長が説明した入居者もあるが、活用には至っていない。玄関に制度に関するパンフレットを整備している。	財産管理問題のストレスから発病した入居者もあるので、入居時や運営推進会議で制度について説明をお願いしたい。行政担当者に制度の関する講師をお願いされてはいいかでしょうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はご家族と話し合いを行いご利用者ご家族の納得の上で契約を行うよう努めている。また、改定の際はご家族に直接説明を行い文章で配布している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、また運営推進会議や担当者会議の際にご意見やご要望を聴く機会を設けている。また、事業所以外の第三者相談窓口も利用開始時に説明している。	意見を伺う機会を増やしたいと、2ヶ月毎に発行しているほしのさとたよりを家族に送付している。家族から、日頃の様子がわかると好評である。また家族アンケートを実施し、満足度等を把握している。謝辞の記載が多いが、今後も継続する予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケア会議を開催、また個別にも状況を聞き意見交換を行っている。	毎月ケア会議を開催し、率直に意見交換をしている。2月は28・29日であるため、給与に影響するので9日の公休を少なくしてほしいとの意見があり、管理者が法人理事会に要望している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月エリア会議を行いスタッフの意見交換を行っている。また、個々の都合を出来るだけ反映させた職務体制とし意見を取り入れている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証される	職員の募集、採用に当たっては性別や年齢の制限はしていない。外部研修への参加費用を一部事業所が負担する等の支援体制もある。	口コミでの採用もあるが、母体法人で採用している。現在は男性職員は1名であるが、男性入居者も多く、4月から1名の男性職員が入職予定である。各ユニット毎に職員の休息室を整備し、30分の昼休みを取っている。職員がいきいきと働けるように、お互いの悩みを話し合える環境づくりをしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者様の尊厳を守る介護を心掛けて利用者様への対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修会(基礎研修、実践研修)や認知症サポーター養成講座及び施設内の研修に参加を推進している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設へ見学へ行き参考にできる場所は、取り入れられている。又、年4回地域の他施設同業者で介護に関する勉強会を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の話を傾聴し、不安とされていることや要望、続けたいことなど安心してサービスを利用できるよう配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前にご家族と面談し、ご家族の意向・要望を聞きサービス提供へとつながるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族と面談を行いサービス内容の説明を行いご納得頂いた上で契約を行うようにしている。また、必要と思われる状況、状態の場合、他事業所の紹介を行う場合がある。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のご意向を出来る限り聞きながら、一緒に片付け等の作業をしながら暮らしを共に送っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の生活の様子や変化があった場合など面会の際にお話したり、電話で報告したりしている。ご本人の要望があれば電話で話していただく時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事や外出援助を行っている。買い物や理髪店に定期的もしくは要望があった時に外出支援をしている。	生まれ故郷のホームに入居できたことを喜んでいる入居者もあり、地域行事に参加することを大切にしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様が孤立されないよう人間関係を観察し把握してトラブルなどが生じないよう職員が支援しながら共同生活ができるよう働きかけを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方やそのご家族から相談があれば支援を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中での言動や行動の変化や意向の把握に努め、思いをくみ取るよう努めている。	アセスメントシートを整備し、入居者の意向を把握している。担当職員が、日頃の関わりから思いや意向の把握に努めている。	把握した生活歴や職歴を整備し、全職員が共有することで、さらなる意向や思いの把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集を行うと共に入居されてからも疑問点など気づいた時はお尋ねして必要な情報を頂きサービス利用に繋げられるよう努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から利用者様の様子観察を行い、体調の変化、心身状態等常に把握して気付いた点は記録に残し情報の共有に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を開き各担当者よりご利用者様の様子や状況報告を聞き取りしながら、またご家族にもご要望をお聞きしながら介護支援計画の作成に繋げている。	胃ろうを造った入居者の今後について、家族にホームの意向を充分伝えられなかったことをふまえ、十分に家族と意見交換をしながら、計画を作成している。担当職員のモニタリング結果をケア会議で報告し、計画作成に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、記入は行っているが情報がきちんと伝わってなくて共有できていない時がある。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時などは家族に協力していただいているものの他では家族の受け入れできなくて外出もままならない。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問カットサービスを提供してもらっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に合わせて受診される。	母体法人理事長が協力医療機関の医師でもあり、十分な連携や緊急時の往診等がある。毎月1回の定期受診は職員が同行しているが、協力医療機関以外の受診は家族が同行している。インシュリン自己注射や胃ろう造設した入居者もあり、看護職員が支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報がうまく伝わらない時がある。必要な情報もきちんと流れない事に問題あり。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供をし、入院中は病院を訪れ、退院時は指導を受ける。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入った時、家族と深く話し合っておく必要がある。エンゼルケアはスタッフ全員が知っておく必要がある。マニュアル作成。	重度化や終末期に向けた方針を今回整備し、家族に説明し、同意を得ている。入居者や家族の希望があれば、看取りを支援する予定である。	全職員でターミナルケアに取り組むために、学習会の開催を期待します。また、私たち全員が避けられない死について考える機会になることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルは作成しているが、訓練・研修には至っていない。AEDの使い方は研修を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の助言を頂き火災訓練を実施している。災害時には併設の施設と連絡体制を敷いている。	非常災害マニュアルを作成し、避難訓練を実施している。併設施設やホームが住宅地から離れているが、ホーム前に市営の寮もあり、非常災害時は理解や協力をお願いしやすい。	運営推進会議に参加されている地域代表等を通じて、地元消防団に理解や協力をお願いされてははいかがでしょうか。また、災害時は地域住民の避難場所として共有空間等の提供も検討をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった時間を過ごしていただけるようにしている。人格の尊重もできていると思う。	ホーム開所時から、職員トイレに良いまたは悪い接遇の事例を掲示し、周知を図るなど職員の言葉遣いに留意している。職員の入居者への言葉遣いや対応は丁寧である。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけでなく何でも尋ねて、自己決定、判断をしていただく。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人、ご本人にあったペースで一日の流れを作るような支援ができている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月一回のカットサービス。選べる方は好きな服を選んでいただく。化粧をする(たまの外出時など)		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料を一緒に切ったり、炒めたりなど一緒に行う。	下げ膳やお膳拭きをしている入居者もある。全職員が同じ昼食を摂り、入居者の状況に応じて見守りや介助をしている。中にはゆったりと自分のペースで食事をしている入居者もある。胃ろうを造設した入居者が経口摂取を希望され、かかりつけ医や家族と話し合いながら、少量の経口摂取を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分はおやつや食事の時に摂取していただいているが、基本いつでも摂取できるようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、航空ケア、義歯洗浄は必ず行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、職員は利用者一人一人のサインを把握している。	入居者の排泄状況や家族の経済的負担の軽減を考慮し、尿とりパット交換時間を検討している。自力でトイレで排泄する入居者も多いが、職員がトイレの汚染や水洗等を確認している。ユニット毎に3ヶ所にトイレが設置され、「厠」と記載されたドアがスライド敷きになっている。また、手すり、移動バー、背もたれ等が設置され、トイレでの排泄を重視していることが伺える。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から排泄チェックを行っており牛乳を摂取していただいたり、主治医へ相談し排便コントロールを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴拒否が見られる方でも声掛けの方法やタイミング等を工夫し、入浴して頂けるように努め、いつでも入浴できるよう準備はできている。	訪問調査当日は「女性入浴日」と浴室に掲示していた。毎日入浴を希望する男性入居もあり、女性が入浴後に入浴を支援している。入浴剤や暖房等を整備し、入浴拒否の場合は声かけや時間を変えたり他の話題で気分転換してタイミングを変え、その方にあった支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃から無理な声掛けなどはせず、本人様のペースで生活して頂けるように努めている。休息されたい時は基本休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。薬の変更があった場合は連絡ノートに記入したり、口頭で申し送りしたり共有に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付けとしてお茶碗拭きやテーブル拭き、また洗濯物の後片付け等を一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は行事や個人支援の中で行っているが地域の人々、施設には出向いているが協力しながらの外出はできていない。	地域行事の花火大会や村祭などに参加している。帰宅願望のある入居者もあり、食材の買出しに同行してもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としてお預かりしているが、ご本人様は所持されていない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでもご家族に電話ができ、また手紙のやり取りができるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に配慮し、特に行事などのディスプレイと一緒に手作りしたり楽しみながら工夫をしている。	玄関を中心にして左右に各ユニットがあり、段差のない広い玄関には下駄箱やイスが設置され、ケース入りのひな人形が飾られている。広い共有空間には、テーブルや椅子、壁際にソファやサマーベットが置かれ、入居者は各々お気に入りの場所で寛いでいる。高い天井は明るく、共用空間は床暖房で、居室に続く廊下は取り外しのできるカーペットが敷かれるなど、空調に配慮している。広い廊下で日なたぼっこを楽しむ入居者もいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事フロアで椅子に座ったりソファに座られたりしながら利用者同士で将棋をされるなど思い思いに過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のものは全てご利用者が自由に持ち込まれてあり、落ち着いた環境の中で過ごされてある。	各居室の入り口に入居者名が大きく掲示されている。居室は広いクローゼットが設置され、ベットや筆筒、籐イスやテーブルなどを入居者が持参している。家族の写真や誕生会色紙が展示され、居心地の良い居室づくりをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の動線上に転倒につながるものがないか検討し事故防止に努めている。また、ご利用者の生活リハビリを職員が声掛けしながら一緒に行い自立した生活が送れるよう支援している		